



一般社団法人 多文化社会専門職機構

文部科学省委託 令和7年度現職日本語教師研修プログラム普及事業「地域日本語教育コーディネーター研修」

講義3 地域日本語教育のプログラムデザイン①

一 教育目標・人・学習活動

プログラムにおいて何を目指し、だれとどのような学習活動を行うのか、事例をとおして考察する。

萬浪絵理

(多文化社会専門職機構・千葉市国際交流協会・国際活動市民中心)



一般社団法人 多文化社会専門職機構

文部科学省委託 令和7年度現職日本語教師研修プログラム普及事業「地域日本語教育コーディネーター研修」

講義3 地域日本語教育のプログラムデザイン①

ー 教育目標・人・学習活動

講師：萬浪絵理

(多文化社会専門職機構・千葉市国際交流協会・国際活動市民中心)

1980年代より研修機関や日本語学校にて多様な学習者層への日本語教育に従事。2012年頃から、外国人市民と社会をつなぐことに関心を移し、地域日本語教育コーディネーターになる。主に千葉市国際交流協会と国際活動市民中心（CINGA）の文化庁委託日本語教育事業において、対話的な日本語教育や学習支援者研修の企画と実践を重ね、成果を発信している。研究テーマは、日本語学習／学習支援と相互理解の両立。多文化社会専門職機構認定多文化社会コーディネーター。

講義 4 の目的

この講義動画は2023年に収録されました。講義番号は収録時のものです。ご了承ください。

地域における日本語
教育プログラムは
多様

本講義で、プログラ
ム策定のための観点
と事例を紹介

さて、あなたの地域
に必要な日本語教育
プログラムは？

- 「生活者としての外国人」に対する日本語教育に携わる地域日本語教育コーディネーターは、行政や地域の関係機関等との連携の下、日本語教育プログラムの策定及び実践を中心的に行う専門人材である。日本語教師及び日本語学習支援者等の日本語教育人材を活用した地域のニーズに応じた教育活動をデザインする役割を担う。

3. 地域における日本語教育の基本的な考え方

・・・37

- (1) 地域における日本語教育施策の方向性について
- (2) 地域における日本語教育の実施主体
- (3) 対象となる学習者
- (4) 日本語能力やニーズ・学習状況等に関する調査の在り方について
- (5) 日本語教育プログラムの編成
 - ・目的・目標
 - ・日本語レベル
 - ・教育内容・方法等
 - ・学習時間の目安
 - ・日本語能力の評価
 - ・日本語教育プログラムの自己点検評価
- (6) 日本語教育人材の確保・配置
- (7) 日本語教育を実施するための連携体制の充実
- (8) 地域における日本語教育事業・施策の評価

4. 地域における日本語教育の内容

・・・77

- (1) 「日本語教育の参照枠」について
- (2) 生活上の行為の事例と「生活 Can do」について
 - ・「生活 Can do」内容と活用方法など
 - ・漢字を含む文字の扱い方
 - ・生活・社会・文化的情報の扱い方
 - ・評価に対する考え方

教育目標・人・学習活動

あなたの地域では、

1. 教育目標…何をめざしますか？
2. 人…どのような立場／役割の人が関わりますか？
3. 学習活動…何をしますか？

この動画を止めて、3分間、ご自身で考えてください。

教育目標 | 地域における日本語教育の目的・目標

<目的>

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が**自立した言語使用者として**日本語で意思疎通を図り生活できるようになること。

<目標>

日本語を使って以下の事柄ができるようにすることを目指す。

- 健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 自立した生活を送ることができるようにすること
- 相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 文化的な生活を送ることができるようにすること

※**自立した言語使用者とは**、「日本語教育の参照枠」における B レベル (B1、B2) を指し、特に地域における日本語教育が目指す B1 については、「仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる」レベル。

- 更に、日本社会側においても、共生社会の実現に向けた意識の醸成を図ることが必要であり、地域の日本語教育においては、その活動を行う上で、「日本語教育の参照枠」の理念等に基づき、次のことを念頭において取り組むことが望ましい。

- ◆日本語学習者が「新たに学んだ日本語を用いて社会に参加し、より良い人生を歩もうとする社会的存在」であることを理解すること。

- ◆日本語学習者の日本語能力は、個々人の状況に応じて習得段階が異なることを理解し、できることに注目し、社会の中でその能力をより生かしていけるように努めること。

- ◆日本語学習者に対して、母語話者が使用する日本語の在り方を必ずしも学ぶべき規範、最終的なゴールとはせず、多様な日本語使用を尊重すること。

- ◆共に社会を作る地域の共同体の構成員であることを理解し、日本社会において当該学習者が本来持っている力を発揮できるよう支援すること。

- 地域日本語教育コーディネーターは、地域日本語教育に関わる人材に対して上記のことについて意識啓発を行うとともに、地域住民に対しても分かりやすく示していくことが求められる。

日本語がわからないと
生活が不便でしょ？

はい、ガンバリマス

日本の習慣を
覚えてね

わかりました
教えてください

こういうとき、日本語だと、
こんな言い方をしますよ

へえ～、わたしの言葉
では、こんな考え方で
こう言います

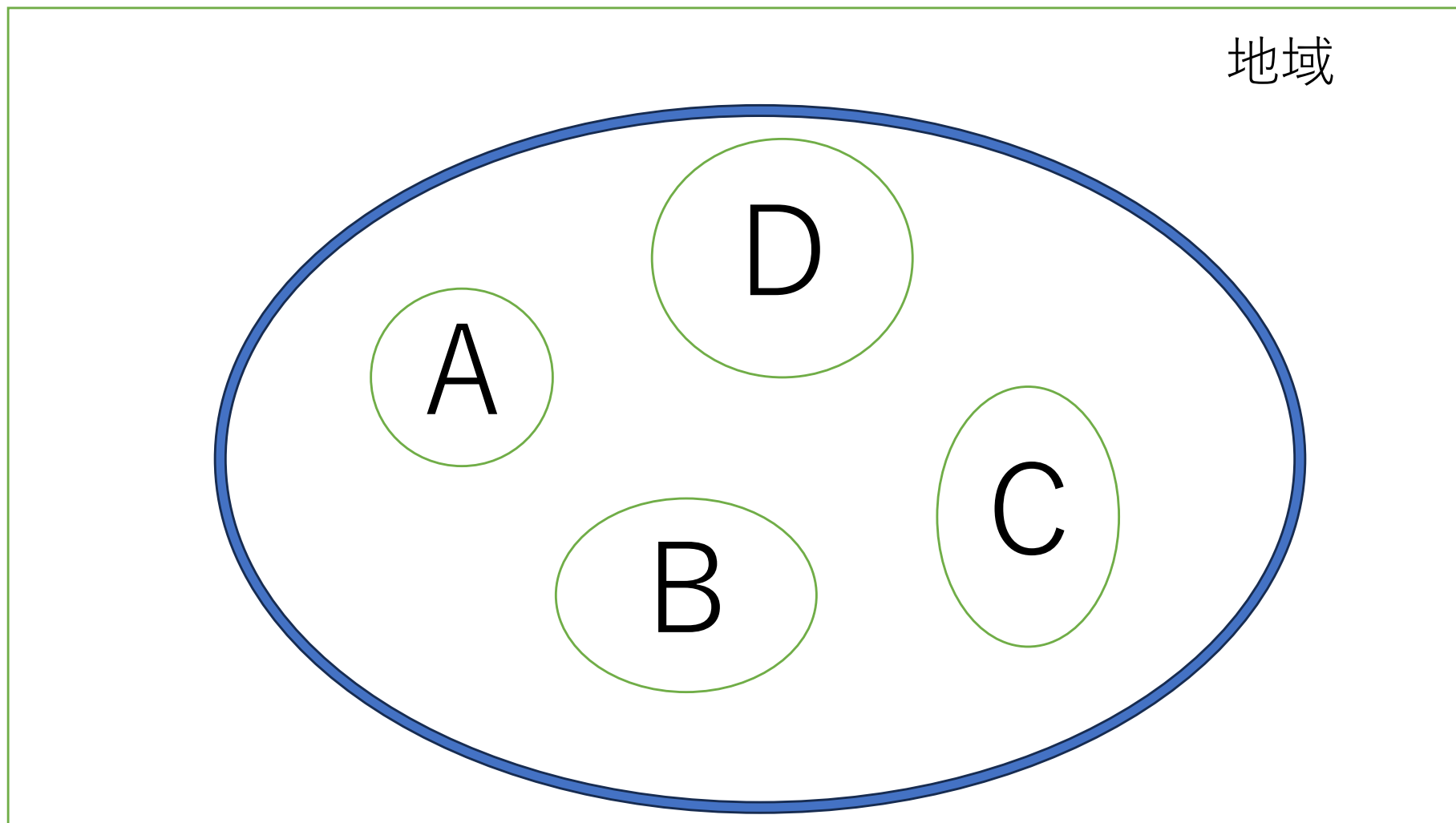
なるほど！
そういう捉え方も
あるんですね！

わたしは
こうしています

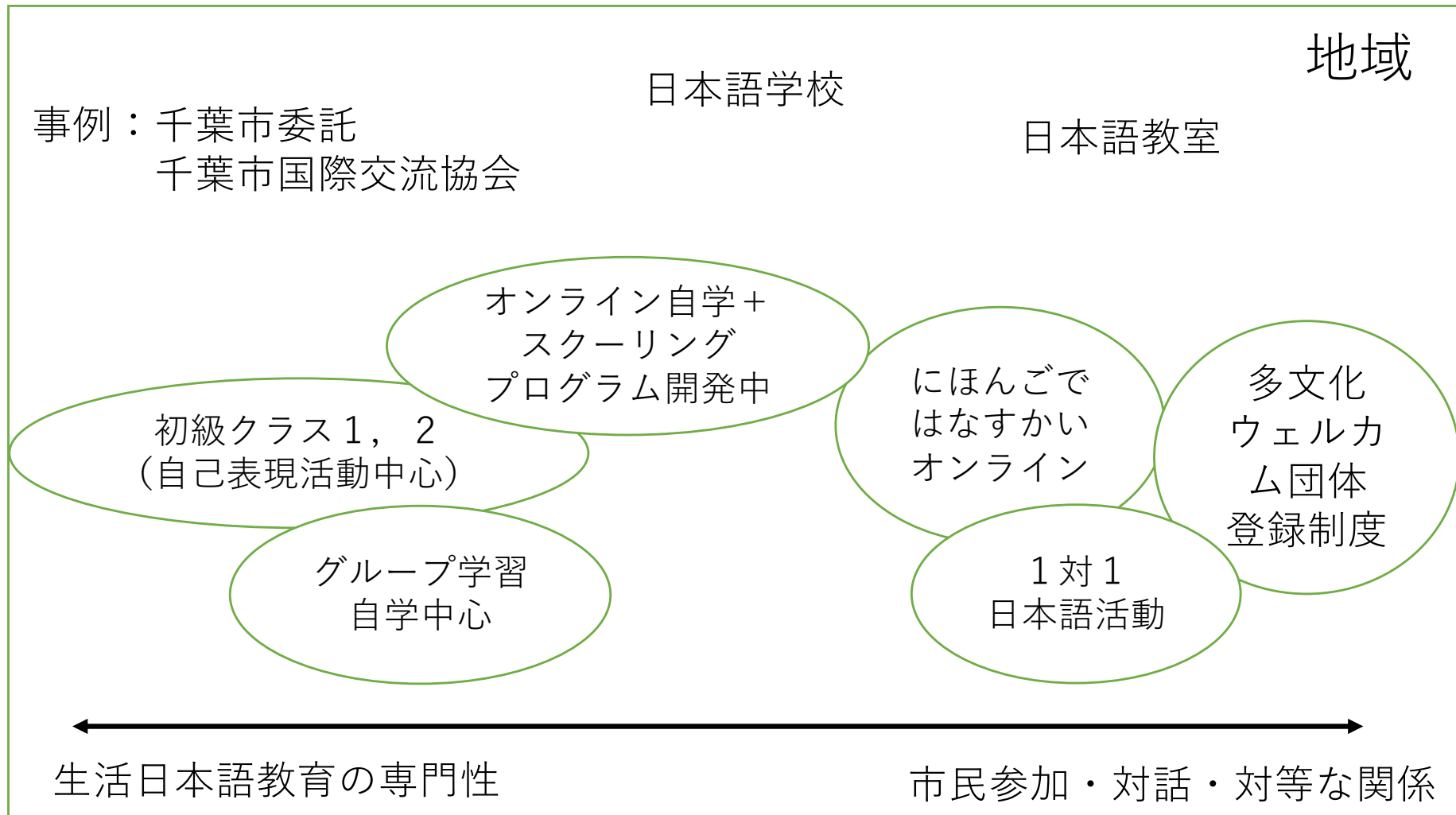
わあ、それもいいですね！

へえ、わたしは
こうしていますよ

教育目標 | プログラムデザインの大小



教育目標 | プログラムデザインの大小

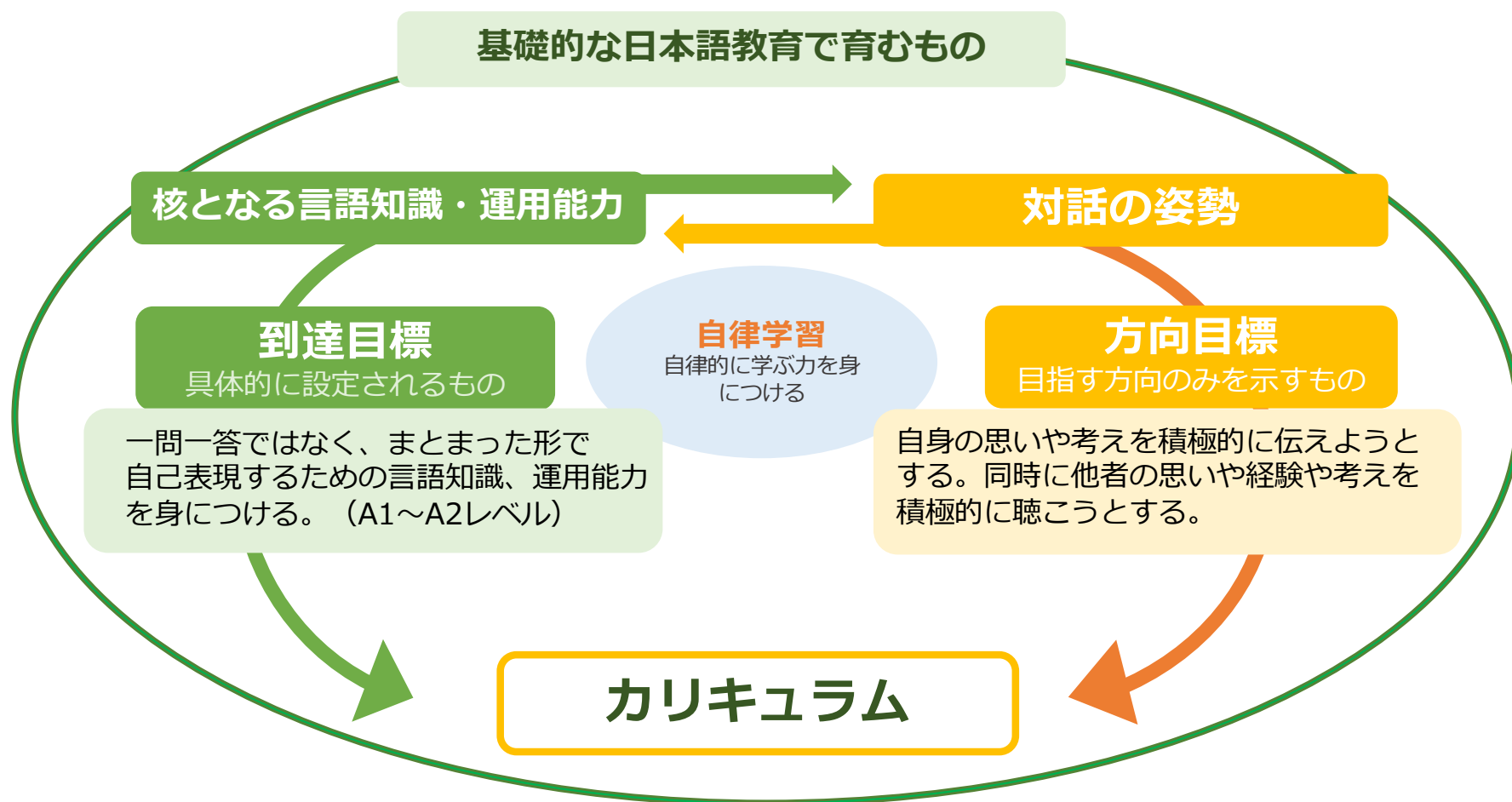


2024年度変更点：“多文化ウェルカム団体登録制度について…登録を希望する団体には、やさしい日本語や文化理解について基礎を研修で学んだ人がいることを「**条件**」としています。”

*「条件」ではなく→2024年8月に「**望ましい**」に変更。

教育目標 | 方向目標と到達目標

事例：特定非営利活動法人 国際活動市民中心(CINGA)の日本語教育プログラム
2021年度 文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
「地域日本語教室での対話的な日本語活動につなげるための基礎日本語教育実践研究事業」



人 | 日本語学習の場と、参加する人

地域における日本語教育活動の充実のための多様な機関との連携

- 地方公共団体が共生社会実現に向けた地域づくりを見据えた日本語教育活動を考えるとき、日本語教育活動を地域社会と結び付けてデザインしていくことが必要である。地域には多様なリソースがあり、それらを有機的につなげ、豊かな教育活動を行うことが望まれる。

「地域における日本語教育の在り方について（報告）」p.74
文化審議会国語分科会

（２）役 割

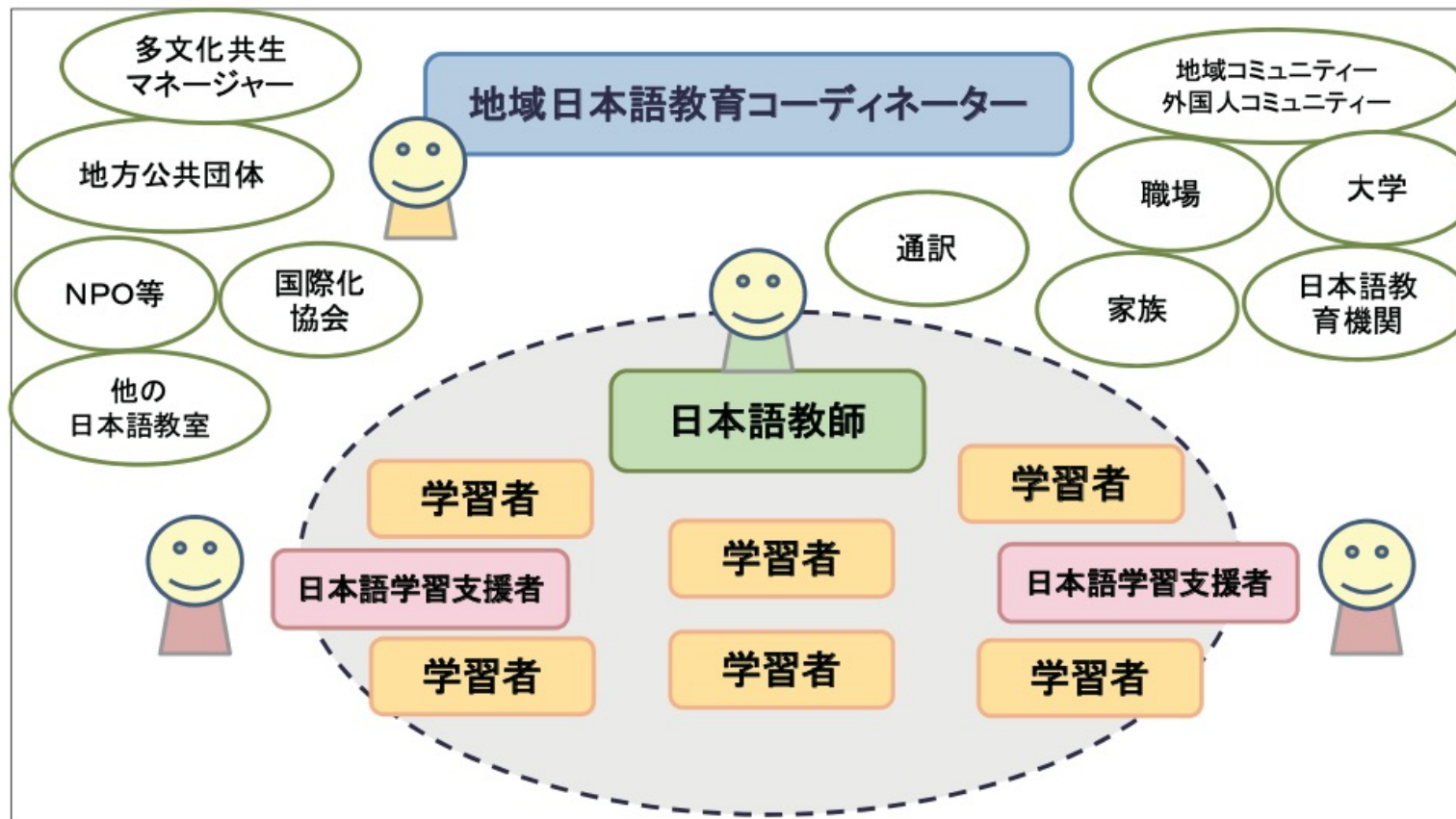
日本語教育人材の役割を次の三つに整理することとする。

① 日本語教師	日本語学習者に直接日本語を指導する者
②日本語教育コーディネーター	日本語教育の現場で日本語教育プログラムの策定・教室運営・改善を行ったり、日本語教師や日本語学習支援者に対する指導・助言を行うほか、多様な機関との連携・協力を担う者
③日本語学習支援者	日本語教師や日本語教育コーディネーターと共に学習者の日本語学習を支援し、促進する者

日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」2019
文化審議会国語分科会

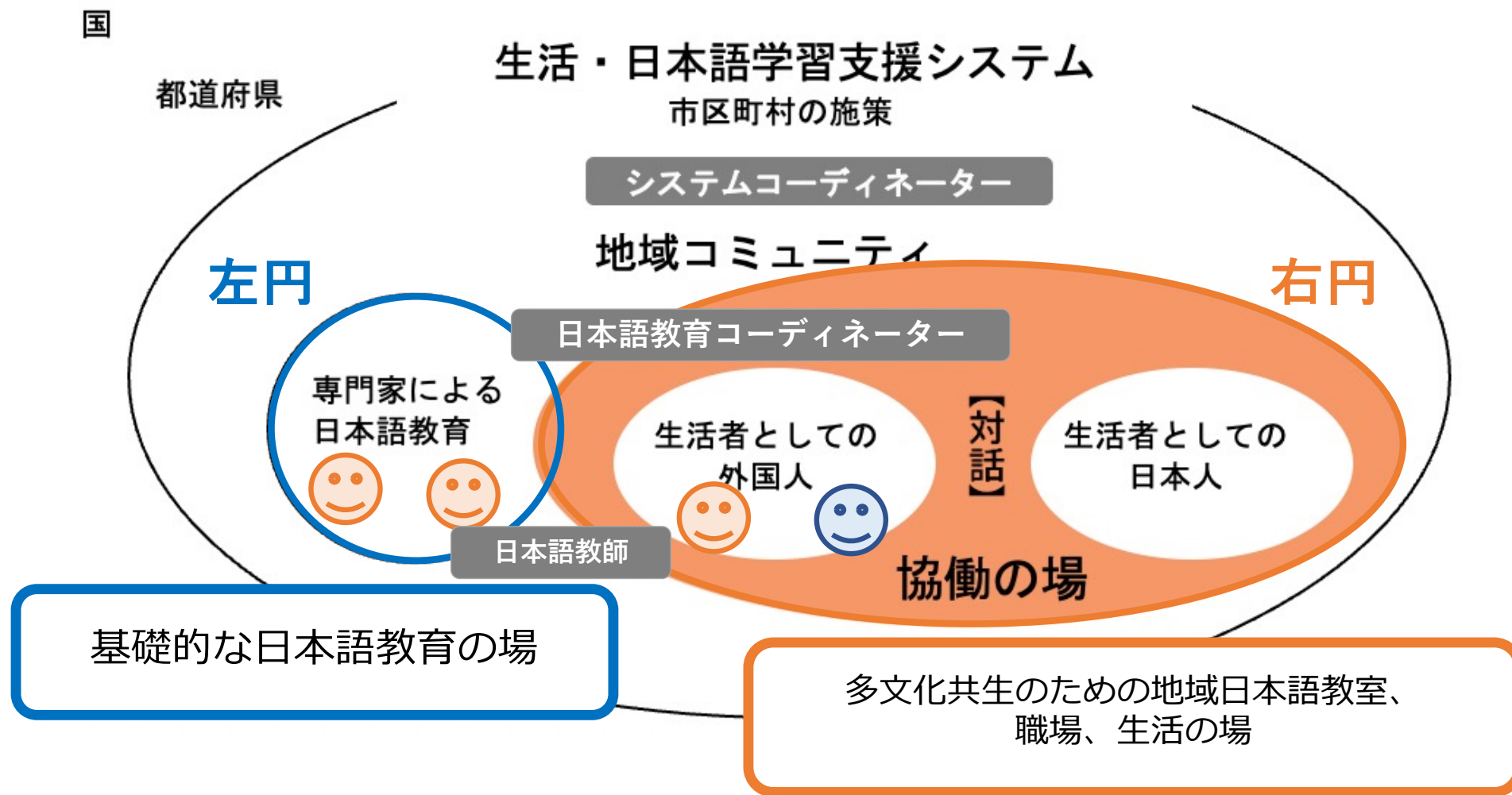
人 | 日本語学習の場と、参加する人

10-1 「生活者としての外国人」に対する日本語教育人材の連携の一例



「生活者としての外国人」が日本語を使って相互理解を図り、社会の一員として地域で生活が送れるよう、地域日本語教室が運営されます。地域日本語教育コーディネーターは、地域の行政機関・NPO、コミュニティー等と連携して、各地域の特徴や学習者のニーズを把握して日本語教育プログラムを作ります。日本語教師は、日本語教育プログラムを踏まえ、学習者に応じて日本語教育を実践します。日本語学習支援者がいる場合は、学習者に寄り添いながら学習を支援します。

人 | 日本語学習の場と、参加する人



図は、平成19年度文化庁 日本語教育研究委嘱 外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発（「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業）— 報告書 —日本語教育学会編 P. 14の図をもとにCINGAが作成

人 | 日本語学習の場と、参加する人

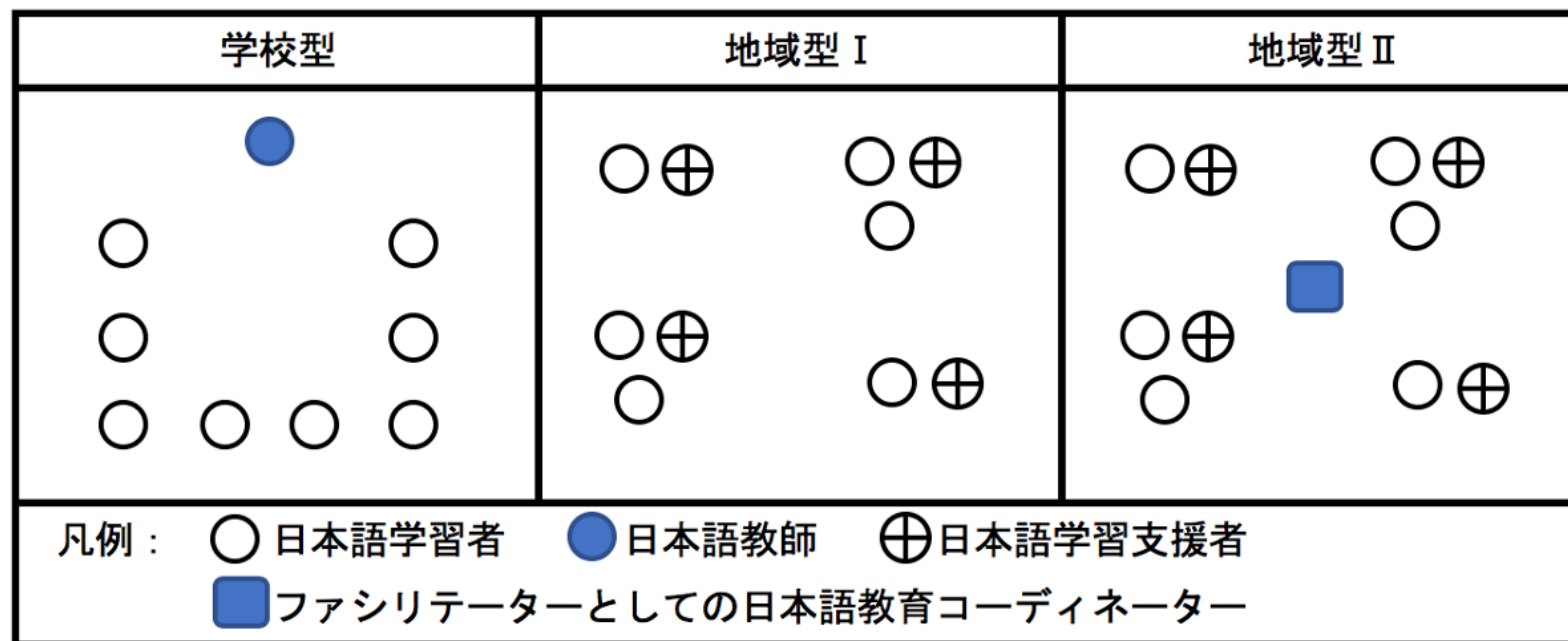


図1 日本語教育の形態の違い：「学校型」「地域型」の名称は尾崎（2004）に基づく。

萬浪（2019）

3) 学習活動

学習活動として、何をするか

「何をするか」 ≠ 「どの教材を使うか」

5つの言語活動

読むこと、聞くこと、話すこと(やりとり・発表)、書くこと

例：話すこと__やりとり

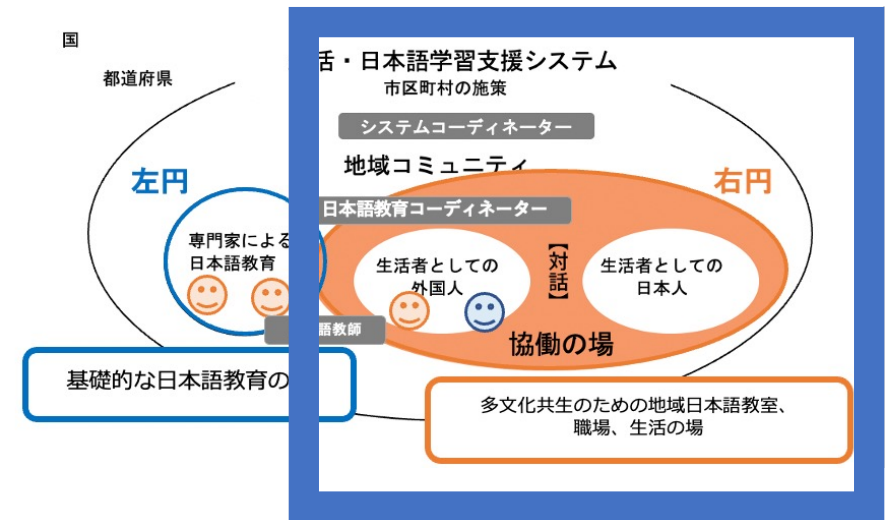
- ①テキストの会話を覚えてロールプレイ？
- ②自分のことを話したり、相手のことについて質問したり？
- ③両方行うが、①が重要？
- ④両方行うが、②が重要？

→日本語教育をとおして何をめざすか。

考え方により、学習活動は変わる

事例①

千葉市国際交流協会



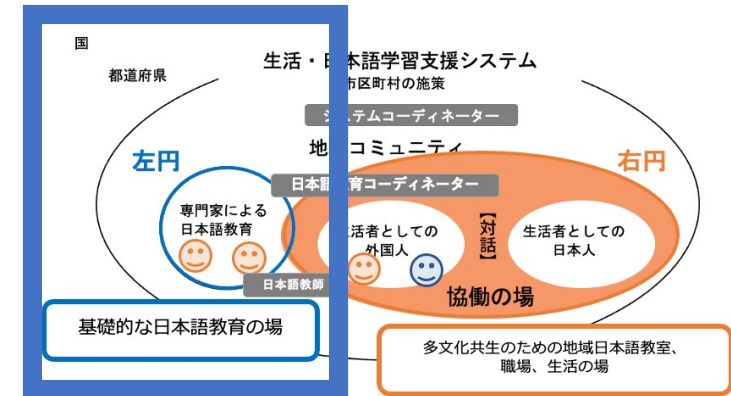
H.26-文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

テーマでつながる日本語クラス

「学習者」「交流員（支援者）」「一般市民」が同じ活動をし
ながら、お互いから学ぶ。

事例②

国際活動市民中心（CINGA）



文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業(R3)

「地域日本語教室での対話的な日本語活動につなげるための基礎日本語教育実践研究事業」

対象：はじめて日本語を学ぶ生活者

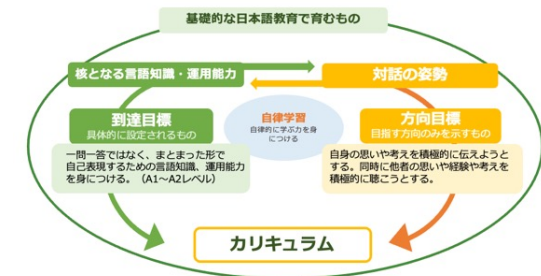
学習活動：

- ・登場人物が語るストーリーをきいて、日本語の言葉遣いを知り、同じテーマで自分の話が語れるようにする。
- ・**基礎的な言語知識・運用能力**をつけながら、**対話の姿勢**や、**自律学習の姿勢**を育む。

授業の流れ：ストーリーの把握、言語事項の確認、

ストーリーのシャドーイング、QA、

自分の話を書く、発表する、やりとりで深める



まとめ

教育目標：

地域における日本語教育は、「多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現」をめざす。その目的に向かい、学習者を「社会的存在」として捉えた教育目標を設定する。

人：

日本語教育事業をとおして市民同士の「相互理解」「相互尊重」を促進できるように、地域のリソースを活用する。

学習活動：

「相互理解」「相互尊重」「社会的存在」をキーワードとして、対話的な共生社会づくりという理念を学習活動に具体化させる。

→何をめざし、だれが関わり、学習活動において何をするのか。一体で考える。

さて、あなたの地域ではどのような日本語教育プログラムをつくりませんか？

参考

日本語教育学会編 (2008), 文化庁 日本語教育研究委嘱 「外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発 (「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業) 報告書」

文化審議会国語分科会 (2022), 「地域における日本語教育の在り方について (報告)」

文化審議会国語分科会 (2019), 「日本語教育人材の養成・研修の在り方について (報告) 改定版」

萬浪絵理 (2019), 「市民性形成をめざす地域日本語教育の学習活動におけるファシリテーターの発話機能一成員カテゴリーの変化に着目した会話分析から」言語文化教育研究17, p. 88-109

講義の中の授業録画に関する事業の資料はこちら↓

国際活動市民中心 (CINGA) 文化庁 令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム(C)「地域日本語教室での対話的な日本語活動につなげるための基礎日本語教育実践研究事業」2021報告会報告
<https://www.cinga.or.jp/language/japanese/japanese-blog/2481/>

国際活動市民中心 (CINGA) 文化庁 令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム「生活者」のための公的な基礎日本語教育の実践研究事業 2022年度報告会報告
<https://www.cinga.or.jp/language/japanese/japanese-blog/4158/>